

死の前夜

時代映畫

原作並脚色 高井清太郎
監督者 長尾史録
撮影者 谷口

主要役割

大工嘉助 松本田三郎
伴新吉 鈴木勝彦
大工佐吉 清水隆之輔
牢役人沼田重二郎 市川海老三郎
嘉助女房おさい 松枝鶴子
口説いてる番頭 富樫卯大衛門



寫 眞 「死の前夜」 帝キネ長尾史録作品。
右より松枝鶴子と松本田三郎。

牢番A 口尼龍太郎
牢番B 小阪信夫
易者 須井戸正光
魁籠屋 嵐 狂二
同 今棒 旭 照子
口説かれてる女中 歌路 英子
藝者 花里百合子
同 中島綾子
長屋の女房 石本梅子

解説——長尾史録氏の「出船の港」に次ぐ作品で、表現派第一回作品として発表したものである。

略筋——嘉助は元大工だったが失業して矢尻町りとなつた頃、妻おさいと嘉助の友佐吉との間を疑ひ、見物三昧に及んだ時、捕吏殺しの下手人として奥かれたのであつたが、その捕吏は嘉助の七首が常る前に既に死んでゐたもので、すべてはおさいに横懸せしてゐた牢番沼田の仕業であつたのだ。それと知らず入牢の後嘉助は沼田を信じてゐたが、その沼田から彼の妻おさいが佐吉の家へ連れ込み、伴に父親と呼びせてゐると聞き、憤りのあまり兩人を殺さうと決心し先づ牢を出る手段として地下に埋めてある金五百兩を報酬として一時の脱牢を沼田に頼んだ。沼田はおさいを殺す事なごめ、嘉助の死後は尼にならせるこの約束で、彼に去り状を委任状を授けた。佐吉とおさいは結婚前お互に死なほごな戀を胸に移めてゐたのであつたが、佐吉は哀れなおさいに同情して監人沼田を介し、嘉助の身代りとなつて死なうとした。意外な佐吉の眞實を知つた嘉助はかげ乍ら己れの非を詫び、二人の幸福を祈りつゝ沼田殺しの罪も一身に預ふて永遠の旅へ發つたのであつた。